

木造不動明王坐像 1 軀

木造不動明王坐像

もくぞうふどうみょうおうざぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品〔彫刻〕

所有者

宗教法人 富光寺(ふっこうじ)

所在地

大阪市淀川区加島 4

紹介



木造不動明王坐像

富光寺境内東側に建つ不動堂の本尊としてまつられる木造不動明王坐像は、像高 38.9cm の彫眼(ちょうがん)像で、膝前部分も含む像のほとんどを一木から彫出する。像底には墨書による銘記があり、「空海作の八髻(はったい)不動」の一体で、貞和 4 年(1348)に高野山龍光院(こうやさんりゅうこういん)の宥算(ゆうさん)が譲与することを記している。銘記は造立(ぞうりゅう)銘ではないが、像容や彫技から銘記の年代である貞和 4 年とあまり隔たらない 14 世紀中頃に制作されたと考えられる。市域に伝来する不動明王の古い作例の一つである。

用語解説

彫眼(ちょうがん) 木を彫りだして、像の目を表す技法。

高野山龍光院(こうやさんりゅうこういん) 和歌山県高野町にある高野山真言宗の別格本山。空海居住の地といわれ、高野山の山内寺院のなかで最古の歴史をもつ。